

〔日本書紀代〕於是陰陽○伊弉諾尊始達合爲夫婦及至產時先以淡路洲爲胞意所不快故名之曰淡路洲迺生大日本此云耶麻豐秋津洲次生伊豫二名洲次生筑紫洲次雙生隱岐洲與佐度洲世人或有雙生者象此也次生越洲次生大洲次生吉備子洲由是始起大八洲國之號焉

〔古事記上〕此八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之時到其沼河比賣之家歌曰夜知富許能迦微能美許登波夜斯麻久爾都麻麻岐迦泥氏登富登富斯故志能久邇佐加志賣遠阿理登岐加志氏久波志賣遠阿理登伎許志氏○下

〔古事記中〕行爾其熊曾建白言莫動其刀僕有白言爾暫許押伏於是白言汝命者誰爾詔吾者坐纏向之日代宮所知大八島國大帶日子淤斯呂和氣天皇之御子名倭男具那王者也○下

〔令義解公式〕詔書式略○中

明神御大八洲天皇詔旨謂用於朝廷大事之辭即立皇后云々咸聞

〔下學集上〕豐葦原上本總名也亦云葦原之三穗國也或書云二神以矛探海底有物得矛物何哉今地主權現日吉答曰確矛物即葦原也故云葦原國也

〔書言字考節用集二〕葦原國日本一名

〔國號考〕葦原中國水穗國も附いふ

葦原中國とはもと天つ神代に高天原よりいへる號にして此御國ながらいへる號にはあらず、さて此號の意はいとく上つ代には四方の海べたはことく葦原にて其中に國處は在りて上方より見下せば葦原のめぐれる中に見えける故に高天原よりかくは名づけたるなりかれ古事記書紀に此號はおほく天上にしていふ言にのみ見えたり心をつけて考ふべしその中に此御國にていへるもいと稀にはなきにしもあらざれどもそは御孫命の天降坐て後には此御國にてももと天上にありていひならへる號をもて呼べることも有しよりおこれるなりさてよもんの海邊のことくに葦原なりしことは續後紀に仁明天皇の四十の御賀に興福寺の僧等